



エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスに関する ビジネス ケース

プロジェクトの現状を打破する推進力、メリット、
および競争優位性

目次

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスとは？

- 5 | エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスがもたらすビジネス成果
- 6 | エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスのしくみ
- 7 | プロジェクト投資におけるリターンとマージンを最大限に

業界の現状とエンタープライズ プロジェクト パフォーマンスの必要性

- 9 | 予算超過とスケジュール遅延
- 10 | ガバナンスとコンプライアンスの必要性の高まり
- 11 | 業界の成長予測
- 12 | 投資プロジェクト業界がデジタル ディスラプションの最優先ターゲット
- 12 | 技能労働者の不足

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスのKPI

- 14 | 効率
- 15 | 予測可能性
- 17 | 管理

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスの経済的インパクト

- 19 | プロジェクト コストの削減
- 20 | 機会コストの削減
- 21 | 関連するITコストおよびPMOコストの削減

新時代のテクノロジー



投資プロジェクトを取り巻く環境は変化し続けています。労働人口のシフト、業界の急激な成長、そして数々の新しい技術によってエンジニアリング・建設セクターが一気に混乱に陥る日も遠くないでしょう。さらに、プロジェクトが複雑さを増していくばかりの現在、プロジェクト主導型組織が期待されるレベルのパフォーマンスを達成することはますます困難になっています。業界の新時代を迎える体制を整えつつある会社がある一方で、先を見越した対策を講じることができない会社は落伍していきます。

大規模な投資プロジェクトに依存する業界、特にエンジニアリング・建設業界は、昔から新しいプロセスとテクノロジーの受け入れに抵抗を示してきました。しかし市場は進化を続け、そこでの競争はさらに厳しさを増しています。そこで成功しようとする組織は、現状に満足するのではなく変化を受け入れていく必要があるでしょう。

業界がその姿を変えつつある中で針路を定め、組織自体のデジタル進化を可能にするためには、より正確な情報へのリアルタイムに近い形でのアクセスが必要です。組織は、標準化と予測可能性の向上をさらに進めることで、タイムリーな是正措置が可能になり、プロジェクトから良好な成果を引き出して事業目標を達成できます。

ただし、ほとんどの組織では、複雑に絡み合った社内製ツールやサイロ化された市販ソフト、そしてExcelのスプレッドシートと格闘しながらプロジェクトを実行しているのが実情です。このような環境が高度なプロジェクト パフォーマンスを達成する上での障害になっており、組織は今日のプロジェクトの複雑性に対応しようにもそのすべがなく、戦略的整合性を推進できず、業務上の意思決定を正しく行えているという自信すら持てません。

それでは、どうしたらこの重荷を競争優位性に変えることができるのでしょうか？ プロジェクト チームが大量のプロジェクト データを利用してよりよい成果を得るにはどうしたらよいのでしょうか？ 経営幹部は、どうしたら全員に共通の理解を持ってもらい、標準化された方法で同じ目標に向かって努力させることができるのでしょうか？ どうしたら意思決定者は自信を持ってパフォーマンスにプラスの影響を与えることができるのでしょうか？

その答えは、プロジェクトのライフサイクル全体を支える単一の環境です。これにより、さまざまな専門分野にまたがるプロジェクト ステークホルダーがより能率的かつ効果的に一丸となって取り組めるのです。これが**エンタープライズ プロジェクト パフォーマンス戦略**です。



エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスとは？

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンス (EPP) は、個々のプロジェクト成果の向上から組織内のすべてのプロジェクトのビジネス目標の達成に至るまで、多くの考察を取り扱う考え方です。EPPソフトウェア プラットフォームは、プロジェクトのライフサイクル全体にわたって広がるプロセス（ポートフォリオ、プロジェクトおよび契約管理、それらを可能にするサブプロセスを含む）を統合することにより、このアプローチを容易にします。EPPにより、組織内のすべてのプロジェクト、プログラム、およびポートフォリオで、すべてのステークホルダーの効率性、予測可能性、管理が向上します。

その結果、プロジェクトの成功が最大限まで高まります。

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスとは？

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスがもたらすビジネス成果

適切なEPPプラットフォームがあれば、組織の財源、人材、機器といったリソースをクリアに可視化できます。これにより、企業がプロジェクトのパフォーマンスを測定できるだけでなく、プロジェクト チームはリスクや変更の効果的な周知および管理を行うことができます。同時に、組織の戦略に合致するプロジェクトを会社が選定できるように支援し、投資計画プロセスの初期段階でのミスを防ぎます。

EPPは、以下を提供することにより、サービス プロバイダと請負業者の利益を増やし、プロジェクト オーナーの投資利益率を最大化します。



コストおよびスケジュールの予測可能性により
コストを大幅に削減



よりタイムリーで信頼性の高い意思決定を行う
ための、効率的なデータの管理と分析



プロジェクトとビジネス チャンスに関するすべてのデータを会社全体で可視化し、先を見越した行動をとるために必要な透明性を確保



プロジェクトのサイズや種類を問わず、あらゆるプロジェクト プロセスの標準化と管理

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスとは？

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスのしくみ

大規模なプログラムや投資プロジェクトを企画、実行する組織の多くは、さまざまなシステムとExcelスプレッドシートを併用していますが、それらの間には自動的な統合がほとんどありません。このようにサイロ化されたツールが分断的に実行されている環境では、効率は下がり、可視化は弱まり、標準化の妨げにもなります。

高度に複雑化し、リスクが高く利幅の小さい現代の大規模プロジェクトでは、エラーを受け入れる余地はなく、時間の浪費も許されません。投資プロジェクトの新時代において、複数の孤立したプラットフォームを使用しているのは後れを取ることになるでしょう。競合他社の多くが数年前からすでにデジタル転換の行程を開始している場合は特にそうです。**互いに分離しているシステムでは、プロセスの重複や手作業によるミスが起こりやすいため、効率も精度も低下します。その結果、コストやスケジュールが超過し、それが企業規模で増幅されると巨大な影響をもたらします。**今日、会社に必要なものは、プロジェクト データソースを一元化する、接続された単一のシステムなのです。

プロジェクトエコシステムには、ERP(エンタープライズリソースプランニングソフトウェア)のようなソリューションが必要です。ERPは事業単位ごとのサイロを取り除き、企業の財務および業務パフォーマンスの単一ビューを提供します。

EPPシステムもこれと同様に、企業内のすべてのプロジェクトの一元的な単一ビューを提供することによって機能します。大部分の会社は、このようなERPシステムでの集中アプローチを何十年も前に受け入れているものの、基幹業務プロジェクトはいまだにExcelで管理しているのです！ 今こそ、EPPとプロジェクトの経済効果を真剣に受け止める時期です。

実際、会社のEPPシステムはERPと連動して動作します。ERPシステムとEPPシステムは、連携して動作することで重要なデータを自動的に交換し、プロジェクトやプログラムを終始一貫して管理する統合ハブとして機能します。



パフォーマンス データの単一のソースがない組織では、プロジェクトを成功裏に完遂する可能性が20%低くなる。”

『プロジェクト管理調査報告書2019年版』、LOGIKALプロジェクト インテリジェンス社



エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスとは？

プロジェクト投資におけるリターンとマージンを最大限に

マッキンゼー・アンド・カンパニーによると、EPPは資本生産性エクセレンスを構成する以下の要素を促進します。

資本戦略と資本配分の整合性 – EPPは、企業が資本戦略と会社全体の戦略との整合性を確保できるように支援します。組織に対して作成される価値という観点から会社が各プロジェクトを評価できるようにします。また、EPPにより、企業は定期的に資本支出をモニタリングして、資本が事業に効果的に配分されているかどうかを確認することもできます。

ポートフォリオの最適化 – EPPを使用して、管理チームはあるプロジェクトの価値を別のプロジェクトの価値と比較できます。組織が各プロジェクトのビジネス ケース 評価を行うことができるように支援します。それにより会社は、ポートフォリオに追加するプロジェクトの選定において緻密なトレードオフを行い、リスクを削減し、シナリオ分析を使用してポートフォリオを調べることができます。請負業者の場合、このプロセスの中心になるのは、顧客に代わって入札して作業ポートフォリオに追加する機会を評価することです。

プロジェクトの概念と設計の合理化 – 世界クラスの企業は、プロジェクトを選定する際に互いが補完し合うように考慮し、プロジェクトのコストと価値を最適化することによってプロジェクトの概念と設計を合理化しています。たとえば、廉価版で置き換えられるプロジェクトはいくつあるか？ 資本支出を削減するために調整できるプロジェクトはいくつあるか？ このプロジェクトが過去に実行したものと似ている点、異なる点は何か？ EPPは、極めて重要な決定を自信を持って下すために必要なこれらの情報によって組織を武装します。

柔軟なプロジェクトガバナンスとステージゲートプロセスの適用 – 柔軟性に欠ける1つのアプローチをプロジェクト管理に適用する代わりにEPPを使用すれば、プロジェクトのサイズと複雑性に合わせてポートフォリオ管理方法とワークフローをカスタマイズできます。プロジェクトが小規模な場合はステージ ゲートの数も少ないかもしれませんが、規模が大きくてより複雑なプロジェクトでは、ステークホルダー、ステージ ゲート、評価基準の数も多くなります。

小規模プロジェクトでも組織イネーブラを確立 – 組織イネーブラには、プロジェクトを意図した成果に導くための構造、プロセス、コミュニケーションが含まれます。これらはEPPの中心をなす理念であり、人々、プロセス、ツールがつながる場所です。EPP内部では、システムの中に作業プロセスが制度化されています。ソフトウェアは、ベスト プラクティスのためのトレーニングとコンプライアンス確保の役割を果たします。全員が同じデータ セットで作業し、承認が組み込まれていて完全に監査可能であるため、経営幹部とプロジェクト チームが共通の理解を持つことができます。プロジェクトの規模が変われば、求められる厳密さや手順のレベルも違ってきます。EPPの理想形は、ある特定のプロジェクトのクラスに対して最も適切かつ標準化されたものに基づいてさまざまなプロセス、方法、コーディング構造、しきい値、ガバナンスを柔軟に割り当てるといったものです。その後、ロールアップして組織全体にわたる報告機能を有効にします。



業界の現状とエンタープライズ プロ ジェクト パフォーマンスの必要性

投資プロジェクトを遂行する業界ほど複雑かつ困難な業界は他にありません。建設セクターは、プロジェクトの規模や範囲、エンジニアリングの複雑性、相互依存の量、長期のプロジェクト期間中に発生する変更によって発生する社内外の新たな需要や障害に、日常的に直面しています。課題が増加し続けているにもかかわらず、過去数十年間にわたって対策というものはほとんど確立していません。

投資プロジェクト業界では、厳しい現実が既定路線です。



「計画どおりの財務利益
が得られるプロジェク
トは6%に満たない。」

米国建設産業協会

EPPを必要とする業界の現状

予算超過とスケジュール遅延

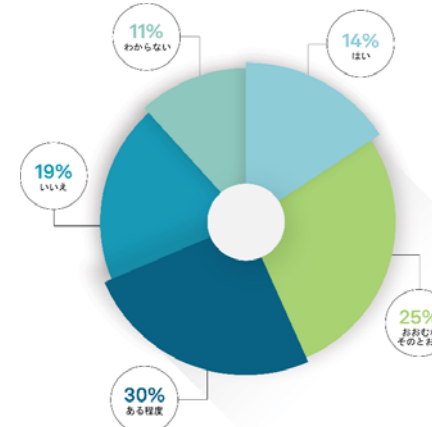
経験豊かなプロジェクト管理者たちが証言しているように、大半のプロジェクトやメガプロジェクトは、予算やスケジュールの大幅な超過に直面します。実際、Ernst & Youngの調査によれば、完成時コストは最初のコスト見積りよりも常に60パーセント近く高くなっています。これにはいくつかの理由があります。

- 設計および範囲変更の管理ができない、リスクの特定と管理ができない、サプライヤ/請負業者のパフォーマンスを管理できない
- 楽観主義バイアス、初期見積りのまずさ、不正確な予測
- チーム間での効率的なコミュニケーションや協力の不足
- 透明性の低さによる責任の限定と非生産的な行動パターンの助長

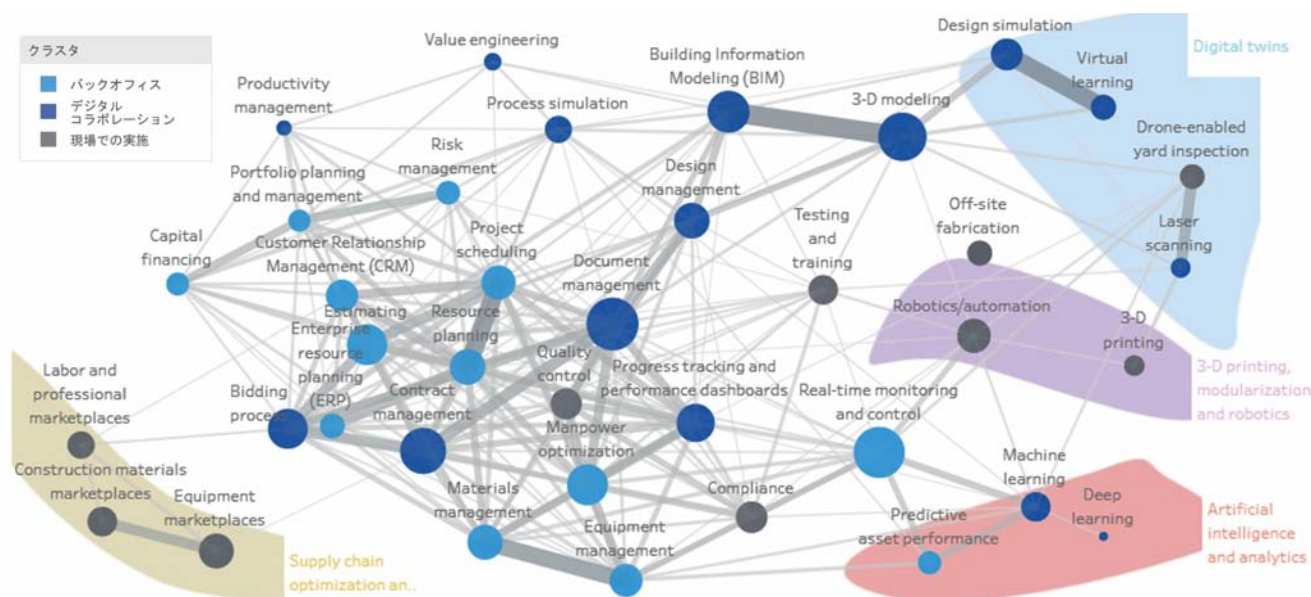
ガバナンスとコンプライアンスの必要性の高まり

建設業に関する世界的な調査では、さまざまな規模の会社に対して、プロジェクト ガバナンスとプロジェクト管理に対する投資がプロジェクト コストの削減につながっているかどうかを尋ねました。50億ドル以上と評価される会社からの回答は精彩を欠くもので(図1参照)、サイロ化したプロジェクト システム(企業規模でのフォーカスに欠け、基本的プロセスや行動を改善する効果はない)に投資し続けても期待利益に届くことはないということを示しています。

プロジェクト ガバナンスとプロジェクト管理に投資したことでプロジェクト コストは削減されましたか？



建設技術エコシステムのマッピング



10

EPPを必要とする業界の現状

業界の成長予測

投資プロジェクト業界の側で準備ができているかどうかに関係なく、グローバル建設業は劇的に拡大中です。膨大な量のプロジェクトが発注されると同時に、業界に対する期待とパフォーマンス需要も、かつてないほどの急速な高まりを見せています。請負業者とオーナーにとって、プロジェクトの量が増えることは、リスクの増大、リソースをめぐる競争の激化、複雑化の深化、成功へのハードルのさらなる上昇を意味します。

正確には、どの程度の成長が見込まれているのでしょうか？ 近い将来、2022年までにグローバル建設業の規模は13兆ドル近くまで膨らむとされています。

しかし、さらに驚異的な数字があります。『Global Construction 2030』という報告書によると、2030年までに次のようになると予測されています。

- グローバル建設業の成長率は85%増加する
- 投資プロジェクトへの支出は21.2兆ドルに上昇する
- 世界全体のGDPに占める建設業の割合は14.7%に達する

次のような数字が続きます。

- 2035年までの間、予測される成長に世界が対応するためには、経済インフラ（運輸、電力、水、通信）だけでも年間3.7兆ドルを投資していく必要があります。
- 今後20年間で、世界は合計94兆ドルをインフラに投資する必要があります。

このような爆発的な成長が業界にとって大きな負荷であることは間違いありませんが、しっかりと適応できる会社ならば、この予知可能な未来の業界を先導していけるでしょう。そうでない会社は生き残りに苦労することになります。

**「2030年までに、建設業が世界全体の
GDPに占める割合は14.7%に達する。」**

グローバル建設業2030報告書



EPPを必要とする業界の現状

投資プロジェクト業界がデジタル ディスラプションの最優先ターゲット

投資プロジェクト業界は、新しい技術の受け入れに関して他の業界よりも遅れています。R&Dに対する支出でも後れを取っています。

しかし、そのような傾向も、より強力かつアクセス可能な技術があれば、逆転できるかもしれません。クラウドベースの堅牢なツール、先進的な財務プラットフォーム、分析機能などは、この業界の技術革命を推進してきました。

新しい建設技術は、デジタル設計および建設前の準備から運転管理に至るまで、投資プロジェクトのライフサイクル プロセス全体を転換していくことになるでしょう。次に出現する技術としては次のようなものがあります。

- モバイル コラボレーション技術の革新
- ビッグデータの分析とIoT (モノのインターネット)
- 5D BIM (ビルディング インフォメーション モデリング)
- 地理位置情報技術と高解像度測量
- 設計と建設分野の将来性をより確かなものにする高度な技術

歴史が示すように、混乱と急速な変化はさまざまな産業に唐突な課題を突き付けます。しかし、きたるべき変化を予見し、早い段階で新しい技術を受け入れるような組織は、競争上の大きな優位性を獲得することでしょう。

技能労働者の不足

業界の劇的な成長に伴う課題に加えて、熟練労働力が減少していくという現実もあります。退職の時期を迎えたベビーブーム世代が建設業界から退場しつつあり、業界の生産性と知識ベースにはギャップが広がる一方です。このギャップはどれほど大きいのでしょうか？ 調査によると以下のことがわかっています。

- ベビーブーム世代は建設工事現場の作業要員の40%を占める。
- ベビーブーム世代は建設管理に携わる人員の54%を占める。
- 米国だけでも1日に1万人のベビーブーム世代が退職しているため、建設の生産性は低下している。

世界中で建設関係の求人が数百万件もある現在、企業としては、新しい世代がベビーブーム世代の知識を利用できるように、知識を取り込むツールを採用することが不可欠です。それだけでなく、そのようなツールは簡単に採用できて使いやすく、新しく建設業界に入る人たちが過去に使ってきた他分野のテクノロジーと同じような感覚で使用できるものである必要があります。

業界には多くの課題と変化が存在しますが、EPPプラットフォームを採用した組織は、進化を続ける世の中で成功するために必要なツールを手に入れることになります。そのような組織の多くは、新しい主要業績評価指標のレイヤを業務に追加できるようになり、競争力も身に付けていきます。





エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスのKPI

プロジェクト エグゼクティブは、投資プロジェクトのパフォーマンスを測定する際の主要業績評価指標（KPI）として財務状況に着目します。しかし、たとえばプロジェクトが予算をどの程度超えているか、または予算を満たしているかといった当面の財務目標ばかりに注目しては、成功に貢献する他の要因が置き去りにされます。

適切なKPIを効果的に追跡しなければ、会社は改善を要するプロセスについて、あるいはプロジェクトにまたがって波及すべき効果的なプロセスについての実用的な洞察を得ることは難しいでしょう。企業が競争力を維持しつつ好調な短期的財務パフォーマンスを達成していくためには、各種の主要業績評価指標を適切に組み合わせてモニタリングすることが重要です。

プロジェクトのパフォーマンスと成功に光を当てることができる重要なKPIには、投資プロジェクトに関与するすべての関係者によって維持される効率性、予測可能性、管理についての測定値が含まれます。EPPテクノロジーは、企業がこのようなクリティカルなKPIを追加し測定することを可能にします。



エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスのKPI

効率

先進のEPPテクノロジーにより、組織は効率性の改善を実装し、測定できます。具体的には、次のようなKPIを追跡することによってこれを実現します。

- タスクの実行に必要な時間の削減、プロジェクト管理に割り当てられる時間の削減、レポートのレビュー回数と改訂数の削減、月次レポートの作成遅延の削減
- 複数のプロジェクトにまたがって関与するリソースの増加、期限内に遂行されたタスク頻度の増加、共通ツールやプロセスの使用の増加
- ワークフロー アクションへの応答時間の改善、レポートサイクル時間枠の改善。

投資プロジェクト業界は、望んだとおりの効果をもたらさないアクションや反復可能なタスクであふれています。EPPは、このような非効率をチームが削減できるように、2つの方法を提供して支援します。

利益を生まないタスクにチームが費やす時間を減らす - 調査によれば、プロジェクト専門家は60%もの時間を競合解決、プロジェクト情報の検索、エラーの再作業といった本来的でない業務に費やしています。EPPテクノロジーは、このような価値の低い業務に費やす時間を組織が特定、測定して、削減することを可能にします。また、煩雑なシステムを嫌う若年労働者が働く現代の職場で、EPPは人材開発・定着戦略として極めて重要な役割を果たします。

反復可能なタスクを自動化する - 重複タスクやプロセスを手作業で行うことは、どの会社でもチームにとって膨大な時間の負担になる可能性があります。EPPテクノロジーは、ポートフォリオ、プロジェクト、契約データのソースを統合してデータの転送を自動化します。

総勘定元帳、調達、タイムシート、スケジュールリング、見積からの重要なデータの抽出、変換、ロードなどが自動化されます。効率性のアップに加えて、データのエクスポートを自動化することでヒューマンエラーが排除され、精度も向上します。

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスのKPI

予測可能性

不測の事態が好きな人はいませんが、エグゼクティブは特にそれを嫌います。会社の投資プロジェクト見積が不正確であれば、生産性と信頼性が急落するのは当たり前です。予測が不完全であることが長年にわたって当然とされてきた業界であるとはいえ、投資プロジェクトの新時代においてそれが許されるはずはありません。

EPPにより、企業は予測可能性に対する改善の実施と測定を行うことができます。重要な予測可能性KPIには次のものがあります。

- 期限内に完了したプロジェクトの数の増加
- 予測の適時性と精度の向上
- 直前になっての予測変更の削減
- 基本予算と最終実績の間のばらつきの削減
- スケジュール正確性の改善によるリソースの浪費削減
- 決裁に至るまで予算処理を繰り返す回数の削減、プロジェクトのキャンセル数の削減

このような改善により、最大級のメガプロジェクトであってもコストやスケジュールの精度を大幅に上げることができます。最も望ましいシナリオと前提が満たされれば、投資プロジェクト企業はスムーズに競争を勝ち抜くことができます。

企業は予測可能性KPIを測定することにより、予測可能性を構成する人材、プロセス、テクノロジーという重要な柱を管理できるのです。この3本の柱は、投資プロジェクトを推進する上で必要なすべてのコンポーネントをカバーするものであり、以下を正常に実装することで測定されます。

- **ポートフォリオ管理** (コンセプトの見積とベンチマーク、プロジェクト開発のステージ ゲート ワークフロー、機会の評価などを含む)
- **プロジェクトおよび契約管理** (計画策定と見積作成の反復を含む)

- **プロジェクト/契約管理** (エンド ツー エンドのセキュアな透明性、適切なタイミングでの報告とコミュニケーションなど)
- **パフォーマンス管理** (タイムフェーズされたパフォーマンス ベースライン、「Living Forecast」、マルチメソッドな予測を含む)
- **予測可能性の測定** (予測可能性指数、予測可能性に基づくインセンティブなど)

投資プロジェクトの新しい状況では、正確な予測や見積だけでは不十分です。EPPテクノロジーでは、会社 新しい予測可能性の基準が追加されます。それは「**タイミング**」です。

プロセスの初期段階で正確な予測ができる会社は、同様の正確な予測を後で行う会社には負けません。予算とスケジュールの超過が早期に予測できれば、組織には必要に応じて針路を修正しリソースを再配置する時間的余裕が生まれます。一方、正確な予測をプロジェクトの最終段階で行う組織には、必要な是正措置を講じるための時間はありません。

プロジェクト ライフサイクル全体の総コストへの影響力

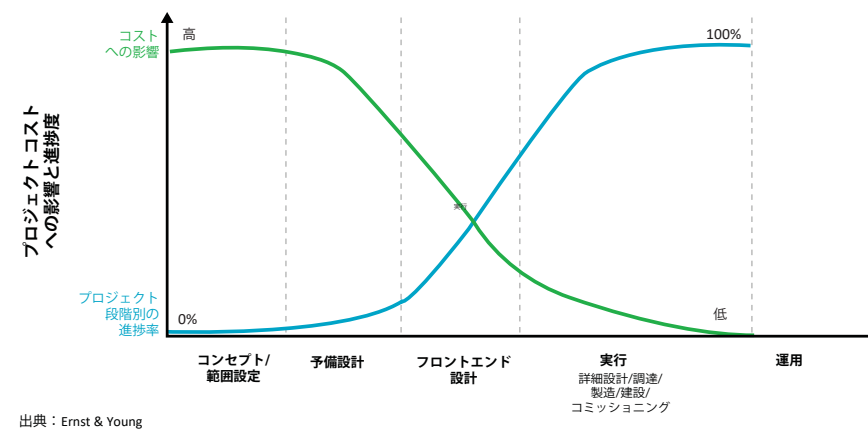


図3: 出典: 米国建設産業協会

A large, stylized white quotation mark icon is positioned on the left side of the text block, opening the quote.

早い段階で予測ができれば、不測の事態や変化に適切に対応でき、そこに付加価値が生まれる。コストやスケジュールの逸脱が差し迫っていることをプロジェクト管理者が予見できれば、適切な人材を配置し、**適切なプロセス**を実施し、**適切な行動**をとらせることにより、原因を緩和できる。”

米国建設産業協会

制御

EPPテクノロジーにより、会社は以下のような制御KPIを実施および測定できます。

- ポートフォリオ内のすべてのプロジェクトのパフォーマンスを**測定、予測、改善**するKPI
- **すべてのプロジェクト データ** (コスト、変更、リスク、生産性、パフォーマンス) を唯一の正しいデータとして統合するKPI
- あらゆるデータ レベルで**リアルタイム分析**を行うKPI
- 標準の推進と実施を通してプロジェクト遂行における**一貫性を確保**する

制御KPIは、建設会社がもう1つの残念な業界慣習である「情報の要求に回答しない」を緩和することを可能にします。

情報の要求 (RFI) への回答は一般に1週間以上かかり、回答そのものがないことも珍しくありません。

EPPテクノロジーにより、建設会社はRFIに対する回答時間を測定、改善して、プログラムやプロジェクトの遅れを避けることができます。RFIに対する回答を改善することで、会社は日々の生産性に直接的な影響を与えると同時に、問題のエスカレーションと解決をより迅速に行うことができます。

EPPテクノロジーは、コミュニケーションミスを削減しリワーク発生率を下げるために必要なデータの透明性とコミュニケーション機能をチームに提供します。これは、プロジェクト コストに大きく影響する可能性があります。実際、Navigant建設フォーラムによれば、リワークの総コストは元の契約価値の11%に達することもあります。

効率性、予測可能性、管理性などのKPIは、従来の投資プロジェクト業界のサイロ化されたツールでは測定できません。しかし、EPPプラットフォームならば、組織はこのような業績評価指標の評価と改善を行い、結果としてもたらされる財務上の利益を享受できるのです。





エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスの経済的インパクト

EPPプラットフォームは、建設および投資プロジェクト会社がすべてのプロジェクトのパフォーマンスを向上させるための中心的な標準化システムとして機能します。

高度な効率性、予測可能性、管理性により、企業はプロジェクト コスト、機会コスト、関連するIT およびPMOコストを削減できます。

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスの経済的インパクト プロジェクト コストを5%から10%削減

EPPプラットフォームによって計画と管理が効率化することで、投資プロジェクト会社はプロジェクト コストを劇的に削減できます。そのコスト削減は以下の要因からもたらされます。

- より正確な予測が行える
- リスクの特定、制御、緩和を効率的に実施できる
- 潜在的な問題に対して予防的かつ早期に対応できる

 ROIはプロジェクト管理を行うことで
CAPEX支出を5~10%節約することを
目標とする”

『自信をもって遂行』、デロイト



ビジネス ケースの推進力	価値 (残りのCAPEX支出の割合)	価値 (50億ボンドのプログラムを基準とするボンド換算)
プロジェクト管理効率の向上によるプロジェクトの管理および制御に必要な人員の削減	0.5 - 1.5%	2,500万 - 7,500万ポンド
意思決定の改善、管理の向上、予備費使用額の削減による資本支出額の削減	4.0 - 7.5%	2億 - 3億7,500万ポンド
より適切に借入必要額とタイミングを把握することによる資本コスト削減	0.5 - 1.0%	2,500万 - 5,000万ポンド
合計インパクト	5 - 10%	2億5,000万 - 5億ポンド

図4: 出典:『自信をもって遂行: 世界に誇るプロジェクト管理で投資プロジェクト遂行を変革する』、デロイト



プロジェクトによる利益を明らかにすることで、
焦点が明確になり、ベストなプロジェクトにリソースを割り当てることができる。これこそが組織の価値を高める方法だ。”

The Strategic Impact of Projects, PMI



エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスの経済的インパクト

機会コストを10%から30%削減

EPPプラットフォームは、組織が各投資プロジェクトのビジネス上のメリットを調べる機能を備えているため、機会コストのさらなる削減に役立ちます。得られるメリットを徹底的に明らかにすることで、プロジェクト リーダーは適切なプロジェクトを選定し、組織は状況に応じて効率的にリソースを割り当てることができます。

各プロジェクトのメリットを把握することで、会社は今までになかった手法でプロジェクトの成功を測定することもできます。さらに、組織はプロジェクトと知識を隔てる多くのギャップを埋めて、将来のすべてのプロジェクトに対して効果的な戦略を策定できるようになります。

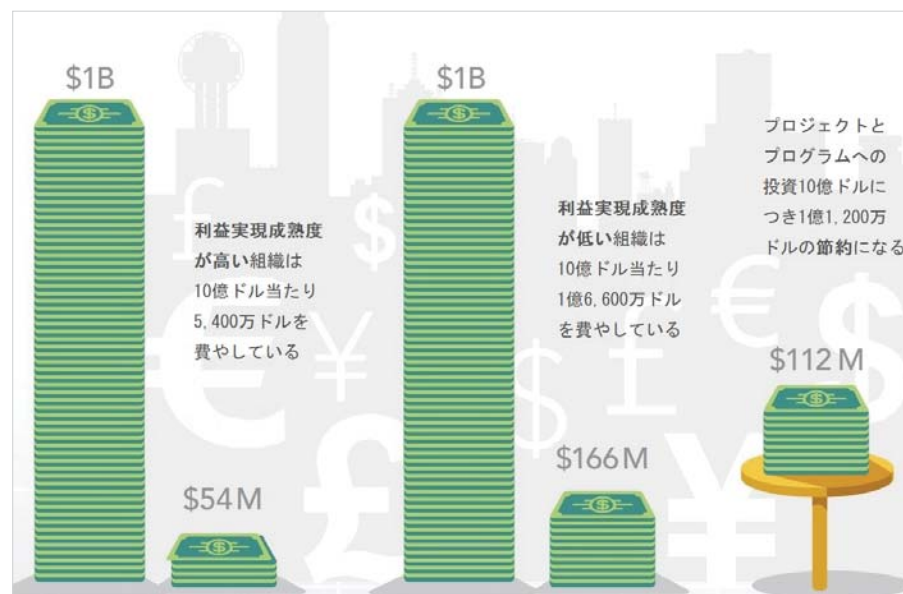


図5: 出典:『プロジェクトの戦略的インパクト』、プロジェクトマネジメント協会。

エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスの経済的インパクト

関連するITおよびPMOコストを20%から40%削減

EPPは、組織がITの効率化やシステムの融合を達成してコストをカットできるように支援します。

この業界に從來からある複雑で孤立したシステムは柔軟性に欠け、自動化能力はほとんどありません。このような非効率が無駄と高いコストにつながります。

EPPならば、組織にあるさまざまなシステムとサイロ化されたツールをまとめることにより、20%から40%ものコスト削減達成を目指すことができます。フロントエンドを調整し、重複機能を合理化することで、EPPはシステム アーキテクチャを簡素化し、オーバーヘッドを削減します。

また、EPPは報告プロセスを自動化し、ヒューマン エラーが起りがちな手作業を排除することで、組織がPMOコストをカットできるよう支援します。さらに、組織がプロジェクト全体でリソースを効率的に使用できるようにします。

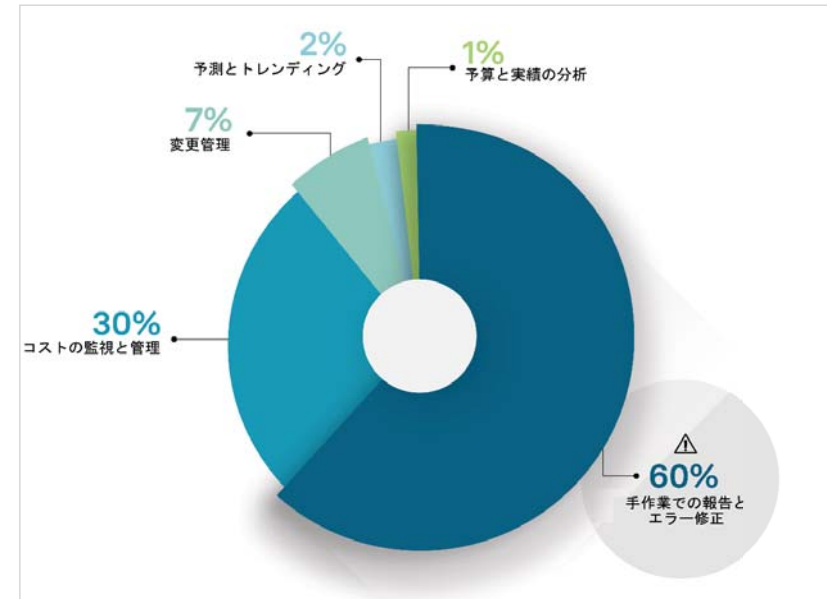


図7: EPP実装前は低価値の業務が60%。

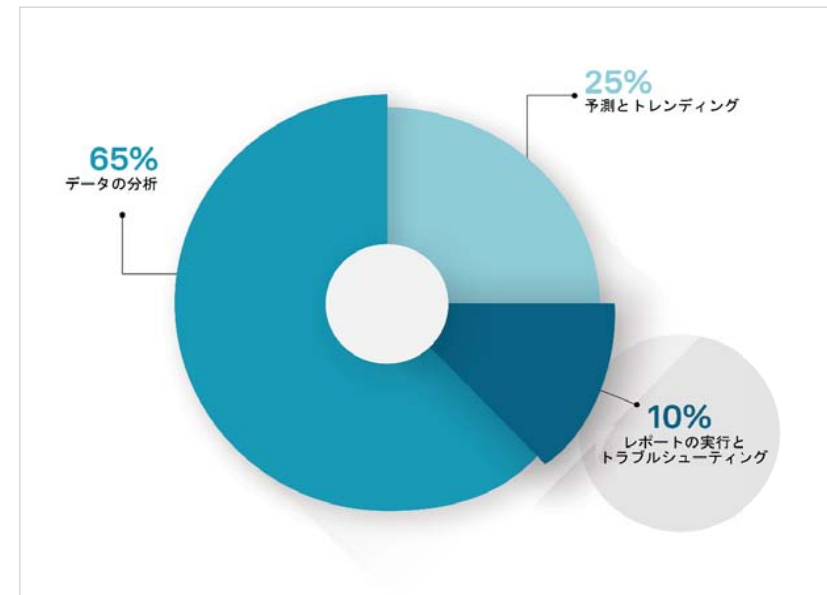


図7: EPPを使用した場合に予想される時間分布。

新時代のテクノロジー

EPPは、エンジニアリングと建設の新時代に向かって組織を前進させる変化の波を生み出しつつあります。かつてないレベルの効率性、予測可能性、そしてプロジェクト管理性を獲得することで、EPPテクノロジーで武装した企業は、今後到来する業界の不確実性に的確に対処していくことでしょう。

正しいテクノロジーを利用すれば、投資プロジェクト業界で仕事をしている方ならば誰でも、プロジェクトのライフサイクルにおけるすべてのステージで今までにないビジネス価値を生み出すことができます。

どこから着手するか 世界のトップ企業は、エンタープライズ プロジェクト パフォーマンスのシステムとしてEcoSysを選定しています。そのトップ企業とは、一流のエンジニアリング/調達/建設会社、プラントオーナー、プログラム/プロジェクト監理会社、政府機関、ゼネコンなどです。

現在もそしてこれからも、新しい投資プロジェクト環境を生き抜いて繁栄していくには「最強の」プレーヤーであるだけでは不足です。未来の成功は、最もスマートで効率的な企業と最速で予測できる人たちのものです。最新のテクノロジーの採用に関心がおありでしたら、今こそ好機です。



Hexagonについて

Hexagonは、センサー、ソフトウェア、および自律型のソリューションを提供するグローバル リーダーです。データを活用することで、工業、製造、インフラ、安全、モビリティの各応用分野の効率性、生産性、品質を高めます。

HexagonのPPM部門は、構造化されていない情報をスマートな電子資産に変え、極めて複雑な構造物や設備を視覚化、構築、管理し、ライフサイクル全体を通じて運転の安全性と効率性を確保できるように、当社のお客をサポートしています。

Hexagon (Nasdaq Stockholm: HEXA B) は、世界50か国に約21,000人の従業員を擁し、売上高は約39億ユーロです。詳細については、hexagon.comまたは@HexagonABをフォローしてください。

© 2020 Hexagon ABおよび/またはその子会社、関連会社。All rights reserved. 02/20 PPM-US-0768A-ENG

EPP戦略が組織にもたらすメリットについて専門家とお話になりたい場合は、ecosys.net/lets-talk-eppをご覧ください。

hexagonppm.com | ecosys.net